



富士川駅構内で車両部品盗難発生？ マスコミ発表は？組合への説明は？ 社員への注意喚起をなぜしない！？

JR東海ユニオン静岡地本「ぎょうむそくほう静岡」（2020年3月31日付け・No.28）によれば、「3月6日に富士川駅構内で発生した車両部品（ATS-S警報器、軌道短絡器、非常引きスイッチなど）盗難について議論を交わした」と報じられている。

ところで、この事件（ぎょうむそくほう静岡）ではなぜか「事故」と表現されている）がマスコミに発表された形跡はない。また、JR東海労静岡地本の組合員の報告によれば、職場でこの盗難事象について社員への周知は行われていないし、注意喚起もされていない。常々、社員に対して「セキュリティ感度を高めよう」と指導している会社にしては珍しいことである。「必要な社員には周知している」と会社は言いたいのかもかもしれないが、直接に列車運行に携わる乗務員は「必要な社員ではない」とでも考えているのだろうか？不思議な会社の対応である。何か隠したいことでもあるのだろうか？今回は信号を「赤」に変えることができる軌道短絡器が盗まれている。そして会社は「車両運用が社外に漏れている」ことを否定していないことに、きな臭さを感じる。

「安全の確保は労使共通の最大の使命」であることは論をまたない。だからこそ、列車運行の安全に関わる事象については労組、社員に前広に明らかにし、注意喚起を促して行くべきなのである。このような立場に立たない会社に対し、抗議するものである。